

# 第28回ASTAP総会の結果報告

総務省 情報通信国際戦略局 通信規格課 国際情報分析官 なるせ ゆき  
成瀬 由紀

アジア・太平洋地域における標準化活動の活性化、情報通信サービスの普及促進、同地域としての国際標準策定への貢献等を目的とするASTAP (Asia-Pacific Telecommunity Standardization Program) の第28回総会が2017年3月6日から10日にかけて、APT (Asia-Pacific Telecommunity) 本部のあるタイ (バンコク) で開催された。

今回のASTAP総会には、APT加盟国38か国の内、16か国の主管庁代表と23の企業・団体を含め、計142名が参加した。我が国からは総務省をはじめ、関係企業・団体から計28名が参加した。

ワークショップの総括として、ASTAPにおいて「IoTとスマートシティ」に関する地域メンバの情報共有を継続し、関連の活動を促進・拡大するとされた。また、ワークショップを受けて、ASTAP IoT専門家グループ (EG IoT) においてもASTAPで取り組むべき課題について議論された。

ワークショップ後に実施されたアンケートでは、評価は高く、今後も開催を望む声が多かった。次回のワークショップは2018年3月のASTAP-30で開催する予定であり、ASTAP副議長のH. J. Kim氏 (韓国) をリーダーとするアドホックグループで企画・検討することとなった。

## 1. インダストリー・ワークショップ

総会初日 (6日) に「IoTとスマートシティ」のテーマで第8回インダストリー・ワークショップが開催された。

オープニングセッションでは、APT事務局長Areewan Haorangsi氏の挨拶の後、ITU-T TSB局長Chaesub Lee氏、トヨタIT開発センター会長 井上友二氏、中国MIIT Ce Zhao氏による基調講演が行われた。その後、産業への応用例、防災・都市への応用例、標準化動向についてセッションが設けられ、各国・企業・組織の取組みや経験について講演があった。プログラムを表に示す。



■写真1. オープニングプレナリ

■表. インダストリー・ワークショップ「IoTとスマートシティ」プログラム

<p>セッション1: オープニングと基調講演 (モデレータ: Dr. Hyoung Jun Kim)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1-1 "Being Smart : ABC", Dr. Chaesub Lee (TSB Director), ITU</li> <li>1-2 "More flexible strategy needed for agile IoT based society evolution", Mr. Yuji Inoue (Toyota IT Centre), Japan</li> <li>1-3 "China IoT Development and Planning", Mr. Ce ZHAO (MIIT), China</li> </ul>
<p>セッション2: Innovation and Transformation (モデレータ: Ms. Michiko Fukahori)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 "Standardization of an information model on acceleration sensor for bridge infrastructure health monitoring", Mr. Hideki Yamamoto (OKI), Japan</li> <li>2-2 "IoT-Tools for Success in IoT", Mr. Andrew Tan (Telit), Singapore</li> <li>2-3 "FIWARE : The Future Internet PPP", Mr. Kaoru Kenyoshi (NEC), Japan</li> </ul>
<p>セッション3: Consideration for deployment of IoT and Smart Cities (モデレータ: Dr. Seungyun Lee)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3-1 "Building smart cities in Viet Nam", Mr. Tien Le Duy (MIC), Viet Nam</li> <li>3-2 "Multi-platform (UAV, UGV and Mobile User) Information and Communication System for Disaster Risk Reduction", Prof. Gregory Tangonan (Ateneo de Manila University), Philippine</li> <li>3-3 "Field trials and deployment of regional resilient IoT platform", Dr. Masugi Inoue (NICT), Japan</li> <li>3-4 "Development trends of IoT", Ms. Haihua Li (CAICT), China</li> </ul>
<p>セッション4: 標準化 (モデレータ: Ms. Haihua Li)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4-1 "oneM2M Standards Activities-IoT/M2M Service Layer", Mr. Norikazu Yamasaki (KDDI), Japan</li> <li>4-2 "Introduction to the oneM2M Certification", Mr. Kanghae Lee (TTA), Korea</li> <li>4-3 "OCF standards activities", Seungyun Lee (ETRI), Korea</li> <li>4-4 "Web of Things : W3C Vision &amp; Roadmap on IoT Standardizations", Mr. Chunming Hu (W3C), China</li> </ul>



## 2. 議長・副議長の選出

任期満了に伴うASTAP議長・副議長の選挙が行われた。議長に我が国の前田氏 (TTC) が、副議長にL. Haifua氏 (中国) とH. J. Kim氏 (韓国) が再選し、2期目となった。任期は、関連規則の改定が検討され理事会に提案されることとなっており、承認されれば2019年まで (3年間) となる見込み。

## 3. ASTAPの体制

ASTAPの体制とそれぞれの役職者を図に示す。

## 4. 主要な審議結果

### 4.1 IT機器及びサービスの安全な利用に関するセキュリティガイドライン

セキュリティ専門家グループ (EG IS、議長:永沼氏 (NEC)) がまとめたガイドライン「IT機器及びサービスの安全な利用 (副題:Protect your data)」を承認した。これは、スマートフォンやタブレットPCなど身近な機器を利用する際に留意すべきソフトウェアインストールやパスワード管理などにおけるセキュリティ確保のための基本的ガイドラインを示したものであり、特に途上国のエンドユーザをターゲットとし

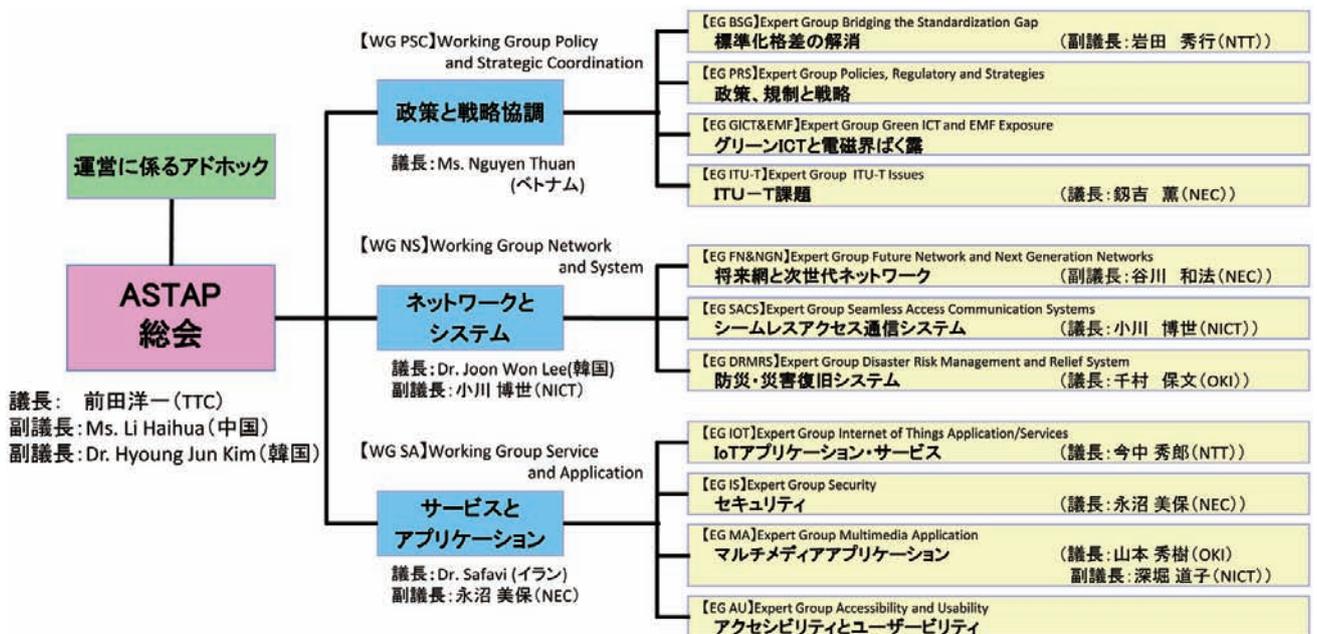
ている。本件は、2014年9月のAPT大臣級会合において採択された、アジア・太平洋地域におけるICTによるスマート・デジタルエコノミーの創造に向けた加盟国の協力を促進する「ブルネイ・ダルサラーム共同声明」による作業スケジュールに従ったものである。

### 4.2 ICTリソース導入のためのガイドライン

標準化格差是正専門家グループ (EG BSG、副議長:岩田氏 (NTT)) がまとめたガイドライン「ICTリソース導入のためのガイドライン」(KDDI提案) を承認した。特にルール地域において、ICTリソースをトップダウンで導入するための体系的手順、ICTによるビジネスソリューションの複雑な構造をシンプルにカテゴライズする方法を示している。

### 4.3 e-ヘルスレポート

IoT専門家グループ (EG IoT、議長:今中氏 (NTT-AT)) がまとめたAPTレポート「APT地域におけるe-ヘルス」を承認した。e-ヘルスの概念とエコシステム、APTメンバ国のケーススタディ (日本、中国、マレーシアのユースケース)、関連する国際標準について報告している。



注:所属はASTAP-28時点のもの

■ [WG]作業グループ

■ [EG]専門家グループ

図. ASTAPの体制 (敬称略)

## 4.4 APTプロジェクト報告

TTCは、2007年よりアジア地域の5か国と連携してAPTプロジェクトに参画し、ルーラル地域における医療、教育、農水産業、環境などの社会的課題をICTにより解決するICTソリューションへのニーズや有用性をASTAPの場に展開する活動を進めてきた。この成果は、APTの「ICT政策と開発のための出版プログラム」において、“Handbook for ICT Projects for Rural Areas”としてまとめられたことが報告され、会合中にハンドブックが各国代表に配布された。

## 4.5 C&I (適合性・相互運用性) イベント

ICT分野の適合性及び相互運用性に関する理解の向上や関連活動の促進を目的に、C&Iイベント(相互接続試験、展示及びワークショップ)がAPTとITUの共催により開催されている。第5回C&Iイベント開催へ向け、調整委員会の設置が承認され、鈕吉氏(NEC)がコーディネータに就任した。2017年のITUテレコムワールド(9月25～28日@韓国)に併催する方向で検討を進める。

## 5. ASTAPの今後の課題

2016年秋にはITU-Tの総会である世界電気通信標準化総会(WTSA)が開催されたが、日本提案をアジア・太平洋地域共同提案としてまとめたことで、提案のWTSAでの影響力を高めることができた。大規模な国際会議の場では各国単独ではなく地域としての意見が問われることも多く、日頃からAPT地域での交流を図り連携を深めておくことが

重要となる。ITU-Tに対しては、ASTAPがそのための貴重な場となる。我が国は、ASTAP議長を輩出するとともに多くの専門家グループにも役職者を出し、審議においても主導的な役割を果たして貢献しており、APT諸国における我が国関係者への信頼が高くなっている。引き続き、関係者と協力してASTAPで我が国のプレゼンスを高めていきたい。

また、我が国のAffiliate Memberにとっては、その信頼をビジネスにつなげることが重要であり、そのための方策を更に探る必要がある。ASTAPは、特に途上国は政府関係者の出席が中心であり、我が国企業が政府とのコネクションを得る場、途上国のニーズを知る場にもなる。ワークショップやレポート・ガイドラインの作成を通じて、APT地域にアピールすることも可能であり、我が国関係者にASTAPの場を更に活用していただきたい。

さらに、ASTAP事務局からも活動の更なる活性化が必要と認識していると聞いており、事務局と連携してASTAPの活動の改善に貢献していく必要がある。

## 6. おわりに

次回ASTAP-29は2017年8月22日～25日、タイ王国で開催予定。22日には「標準化ワークショップ」を開催し、各国のSDOを招待しそれぞれの国が関心を持つ活動を共有するとともに、APTにおける標準化連携の在り方を議論する予定である。

本会合出席者の皆様、対処検討等でご協力いただいた関係者の皆様に、御礼申し上げます。



■写真2. 会合出席者